



た」、そしてプランの実現を推進する立場にある区民会議が連携しあってこそ達成できるものと考えます。

ここ数年、特に大田区が変わったと感じることは？

荒井 若い世代は共働きが増えてきた

と思います。これは性別役割意識の垣根がとれてきている証拠ではないでしょうか？ただ、その夫婦がいざ大変な状況（仕事が忙しい、子育てや介護がある）に直面すると、とたんに役割にとらわれる気がします。たとえば、私の体験談ですが、夫婦ともフルタイムで、週末、妻が外出するととなるとちよつと不満に思う自分がいるんです。頭ではわかっていても、男女を入れ替えると、とたんに違和感がでるのは性別役割意識にとらわれているのですよね。



牟田さん
04年より男女平等推進センター「エセナおおた」の職員となる。11年より同センター長に。

牟田 育児や家事をする男性が増えたと感じます。若い男性は育児に積極的

に参画している傾向が見られます。中高年の男性も料理や介護、地域デビューに関心を持っています。育児参画にしても地域デビューにしても家庭や地域を支えてきた妻や女性たちとは上下関係ではなく対等な立場で接しなければできないことを肌で感じているようです。

最後に新プランへエールを

荒井 プランは、はつきりいつて総話的な内容です。その理由は、いろんなカテゴリーを見て男女平等が身近な部分にあり、その大切さに気づいてもらいたいからです。ぜひいろいろな場面で男女共同参画の視点を持っていただきたい。

牟田 今回数値目標が設定され、プランを実行する立場である私たちも気合が入っています。目標値をクリアできる対策を考え、誰もが互いを尊重し支えあう大田をめざしてがんばります！